

# OSAKA・II ZONTA CLUB

大阪Ⅱ ゾンタクラブ第54号(2022年9月)



## 巻頭言

これからの2年にむけて

新会長(2022～2024) 坂本 千代



2022年6月から2年間会長を務める事になりました。責任の重さに身の引き締まる思いです。国際ゾンタの一員となって16年目、やっとクラブの醍醐味がわかるようになった気がします。これからの2年については、何より2024年3月の大阪Ⅱゾンタクラブ創立30周年記念事業・式典の成功のために準備することが大きな仕事です。次に2022・23年度のクラブの活動をつつがなくおこない、できれば新入会員を何人か増やしたいと考えています。そのためにも、来年3月の大阪Ⅱチャリティイベントを成功させたいのですが、それに大きく関わってくるのが、今後の新型コロナ感染の状況だと思えます。

ところで、ここ2年ほどの通信・コミュニケーション・人間関係の変化には感慨深いものがあります。2020年2月、2019年度の授業が終わった頃から、新年度(2020年度)の遠隔授業の話が出始め、私の勤務大学では教職員のほとんどが半信半疑のうちに全授業・全会議がオンラインへと突き進んでいきました。それまで聞いたこともなかったZoomというものを使って自宅から遠隔で授業をしなくてはならなくなり、同僚教員と何度も授業練習をやりました。また、科目によってはオンデマンド授業(いつでも視聴できる授業)になるものもあり、パワーポイントのスライドに音声をつけた教材を見様見真似・試行錯誤で作成し、学内ウェブで学生に公開して勉強してもらいました。自宅で家事をしながら教授会に参加したこともありました。こちらのほうも事務方の努力のおかげであっという間に進化して、しばらくすると無記名投票も自宅からできるようになりました。この年には大学院入試の面接の一部も遠隔でおこなわれました。たった1年前には想像もできなかったことでしたが、こんなふうに大学での私の定年前最後の1年は過ぎました。コロナ禍真っ最中でしたので、退職のさいの最終講義も大々的な送別会もなしでした。

かなり悪戦苦闘の1年でしたが、その経験が役に立つこともありました。Zoomに慣れたので、クラブの仲間にそれを紹介し、例会や役員会をZoomで開催できるようになりました。新型コロナ感染がだいぶ落ち着いた現在、例会は対面に戻りましたが、役員会はZoomで開催しています。以前の役員会は例会の前に30分くらいでやっていたので、時間的に短くまた参加出来ない方も多かったのですが、オンラインになってからは、もっとじっくり重要事項を相談できるようになりました。でも、良き人間関係の秘訣はやはり同じ時と場所を共有し、実際に会って顔をつきあわせて話して(食べて?)理解し合うことにあると思えます。ですので、今年度は例会もチャリティイベントもできるかぎり対面開催でいきたいと考えております。そのためにも1日も早い新型コロナ禍終息を願ってやみません。

皆様、これからの2年、どうぞよろしくお願いいたします。

## 午前の部について

幡山 玲子



5月15日 ANA クラウンプラザホテル金沢において26地区エリア3第14回エリアミーティングが開催された。開会式の後、最初にビジネスセッションが行われ、エリア費の収支中間報告と前回和歌山での第13回エリアミーティングの収支報告が行われた。続いて、4エリア共通プログラムとして、3つのテーマについてワークショップが行われた。会長時代を振り返って考えると、3テーマとも気づきの多いプログラムだった。

まず、「ゾンタ入会前の人への誘い方、入会後のオリエンテーションのやり方について」と題して、会員委員長(当時)の浅野万里子さんが、リーダーシップ開発委員長の水野幸子さんに代わって講演された。入会の手順として、希望者にはまずもって例会を見学していただき、活動の様子を理解してもらうこと。イベント等に参加していただき、資金づくりの活動を見ていただくこと。会長や紹介者等が希望者と面談して、ゾンタが政治、宗教、国籍、職業、性別等と無関係であることも含め、ゾンタの組織の説明をさらに尽くすこと。そして入会されたあかつきには、ゾンタの奉仕プロジェクトにかかわっていただき、活動を通してゾンタの奉仕活動に理解を深めていただき、ゾンタの一員としての存在意義を自覚していただくことが重要である等お話しいただいた。大阪Ⅱには2021年に新入会員が入会されたが、結局1年余りで退会された。退会理由は家庭の事情とのことであったが、ゾンタの活動への理解、シンパシーを深めていただく努力が不足していた結果なのだろうと今にして思う。

次に26地区書記の後藤宮子さんが、「国際会費の支払い方、新入会員の登録の仕方」について説明下さった。これぞ私が欲していたもので、会長当時、新入会員の登録と新入会費の支払いでモタモタし、西川エリアディレクターや浅野会員委員長にお尋ねして、ようやくのことで新入会費を支払うことができた経験があり、これからの会計や会長にとってはとても役に立つ情報提供だったと思う。

最後に岡澤ガバナーが「会議のやり方 初心者のためのロバート法入門」と題して講演くださった。ロバート法とは、議事進行のためのルールであり、会員が発言する機会を公平に保護する民主的な議事手続きである。ロバート法では、主動議に対して提出される修正動議や優先動議、付随動議など、動議そのものの中身の理解が難しく、動議を審議する順番もいろいろルールがある。また提出された動議に対してセコンドが必要で、セコンドがつかない限り審議対象とはならない。

例会での審議ではロバート法を実践するようによく言われるが、会長時、例会等で正しく実践してきたとはいいがたい。会員の発言が単なる意見表明なのかそれとも動議提出なのか、また動議提出だとしても、セコンドをつけるやり方に慣れていないためセコンドなしに議長判断で討議し、採決するなど、議事進行上意見の整理をしないまま採決した場合がよくあった。反省点である。今後はいただいた「議事手続きa-b-c」を手元にロバート法に一步でも近づくよう例会での発言を考えていきたいと気持ちを新たにしたい。

## 午後の部について

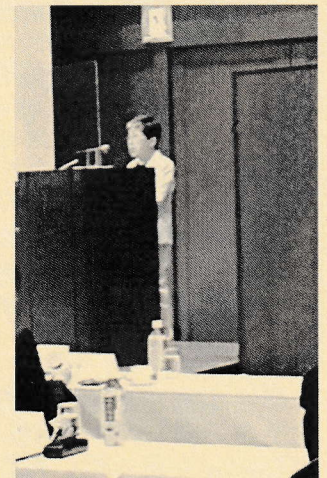
坂本 千代



エリアミーティング午後の部は昼食後開始でした。13時30分から14時50分まではコシノヒロコさんの記念講演「ゾンシャン達へのメッセージ 人生はこれから！」でした。コシノさんは二人の妹さんたち(ジュンコさん、ミチコさん)とともに世界的に活躍されているデザイナー・アーティストで現在85歳。ファッション人生60年をふりかえって、最新作品のビデオや昔の家族写真を見せてくださりながらのお話でした。個性的な母方の祖父母や母との思い出、妹たちとけんかしつつ欲しいものを自分でつかみとって成長してこられたエピソードのあとに、「人生とは自分でデザインするもの」というモットーのもと、「苦手なことはしない」「あえてライバルを持つ」「趣味には手を抜かない」「逆転の発想」についてご自分の体験を交えて語ってくださいました。85歳には見えない若々しいお姿、張りのあるお声、並の人にはとてもまねのできないような大活躍のお話に会場の全員が引き込まれました。聞いて良かったと思えるおもしろいご講演でした。

20分間のコーヒブレイクのあとは「ワークショップⅡ クラブの実践から」で、京都Ⅱゾンタクラブ「メンター制度について」、大阪Ⅱゾンタクラブ「講演会『子ども虐待の見方と支援』の報告」、福井ゾンタクラブ「講演会『性の多様性について知ろう LGBT等とは?』の報告」、金沢ゾンタクラブ「Zonta Says No 金沢駅・金沢港ライトアップの報告」がありました。私たちのクラブからは昨年の講演会の内容についてまとめた広報紙の記事を配布して、幡山会長が簡潔にお話されました。聴衆の反応も上々でした。

最後に岡澤ガバナーによるミーティングの講評、エリアディレクター交代式が行われ、夕方4時過ぎに閉会となりました。全体としてたいへん有意義な会議だったと思います。サンダーバードの車内で幡山会長と一緒に夕食のおにぎりを食べて楽しい気持ちで戻ってきました。



幡山会長の報告

## 前夜祭と打ち上げ

内藤 恵子



地区大会 Part2 の前夜祭と打ち上げの昼食会に参加しました。ガバナーのお考えで、Part1 は地区の方針ハイブリットで開催されましたが、Part2 は友情溢れる対面の地区大会となりました。琵琶湖ホテルでの前夜祭も理事、各クラブの楽しい余興がありました。最後の日は三井寺の住職に案内して頂きました。昼食会は南座近くの「キエフ」(加藤登紀子さんのご家族の店)で最後のお別れを惜しみました。東京や東北のゾンシャンなど 40 名が出席して、ガバナーのお人柄でした。

## メモリアルサービスと本会議

坂本 千代



国際ゾンタ 26 地区第 16 回地区大会 Part 2「ゾンタを明日へつなぐーウクライナの 3 つのクラブに心を寄せて」が 2022 年 6 月 10 日(金)から 12 日(日)にかけて琵琶湖ホテルで開催されました。10 日夜の前夜祭に続き、11 日 9 時から 10 時までホテル内でメモリアルサービスが行なわれ、大阪Ⅱゾンタからは幡山さん、内藤さん、私が出席しました。参加者の多くが黒い服を身に着けていたので、何も考えずに普通の服装(鮮やかなブルーのトップと黒いパンツ)で出てしまった私はちょっと肩身が狭い思いをしました。大津ゾンタ会員の玉井洋子さんのバイオリンによるバッハの無伴奏パルティータ第 2 番の演奏のあと、この 2 年間に亡くなった 21 名のお名前と紹介文が読み上げられました。100 歳以上の方が 2 名いて、一番若い方が 61 歳でした。献花、詩の朗読、コーラスがあり、本当に感動的な儀式でした。私もメモリアルで偲んでもらえるくらいゾンタの活動を続けたいものだと思います。

11 時にホテルの前に停泊していた汽船「ビアンカ」に乗り込んで航海しながら本会議となりました。大阪Ⅱからの会議出席者は、内藤さん、三林さん、私の 3 人でした。岡澤ガバナーの挨拶、木下国際理事の来賓挨拶のあと、ウクライナ出身のクードリア氏のトークがありました。そのあと、地区アワード、エマールコンロン地区賞の表彰が行なわれ、2020～2022 年度の役員・委員長からの報告がありました。

船が柳が崎湖畔公園港に着くと休憩となり、おいしいお弁当を食べながら歓談しました。船に残った人が多かったのですが、私は小雨の中、船外に出てびわ湖大津館を覗いてきました。とても楽しかったです。

## 前夜祭からフィナーレパーティまで

三林 京子



10 日の前夜祭の恒例！役員オールスターキャストの「天国と地獄」のラインダンスに始まり、11 日の夜の琵琶湖畔の打ち上げ花火までは、あっという間に時間が過ぎ去ったような気が致します。

坂本会長始め幡山・内藤前会長というお歴々とご一緒させていただき、いつもながらウロウロとしてばかりでしたが、おおいに楽しませていただきました。岡澤則子ガバナーの最後のご挨拶は、コロナ禍で思うように動けなかった無念さを感じは致しましたが、持ち前の明るさとウィットに飛んだ素敵なお話でした。

新しい浅野万里子ガバナーも明るくエネルギッシュな方ですので、今年からもおおいに発展出来ると期待しております。

加藤登紀子さんが食事の最中から歌い始められたので、ちょっとお気の毒と思いましたが、さすがの大ベテラン！見事なステージに魅了されました。久しぶりに加藤さんにもお目にかかれて嬉しい日となりました。皆様に感謝申し上げます。



## 第65回国際大会

## 国際大会報告

内藤 恵子



6 月 24 日から 29 日まで、ハンブルグで、第 65 回国際大会が開催されました。日本からは、10 名の参加で、それぞれが、できる限りプロキシーを預かって行きました。世界からは、2000 人と、例年通りでした。コロナと交通手段がヨーロッパで乱れていて、皆それぞれに大変な思いをしました。会場は、オープンして初めての国際会議でした。大阪Ⅱゾンタクラブの扇のバッジを、世界中のゾンシャンと交換してきました。選挙では、木下前国際理事が指名委員になりました。

私は、26 地区バイローズ委員長をお受けしました。宜しく協力お願いします。

## 大阪IIゾンタクラブ イベントVOL.27

## 「持続可能社会のために何ができるか 化学者と消費者の見地から」

日時：2022年5月22日(日)13:30-16:00

会場：リードあしや(あしや市民活動センター) 会場参加とオンライン参加のハイブリッド形式

13:35-14:25 講演1：大野隆氏(神戸大学名誉教授・工学博士)「未来をあきらめない化学」

14:30-15:20 講演2：下村委津子氏(認定NPO法人環境市民副代表理事)「未来の選択～私たちの買い物が社会を変える～」

15:40-16:00 質疑応答

## 大野隆氏「未来をあきらめない化学」報告

坂本 千代



全地球的な持続可能性は人類の未来を左右する決定的な課題だと大野先生は講演を切り出されました。先生によると、地球という大きなシステムに対しては私たちの行為はほとんど影響を与えないように見えるけれど、つねに「10億人単位での行動」を考える必要があります。空気に関わる環境問題からはじめて、持続可能な未来のために化学はどのような役割を担っていて、どのような貢献ができるのかというお話でした。

講演では「分子レベルで見た呼吸」「空気中の二酸化炭素と水蒸気」「空気汚染物質」「オゾン層破壊の原因と保護」「紫外線が生物に与える影響」について述べられたあと、化学者主導でオゾン層や紫外線の組織的な観測や研究が行なわれて、オゾン層破壊物質の規制等の国際的な枠組みが構築されたことが説明されました。そのあと、大野先生は以下のような「グリーンケミストリーの原則」を紹介されました。

1. 廃棄物は、出してから処理し掃除するのではなく、生成させない
2. 生成物を作るための原材料の量を最小に押さえる
3. 使用する物質および生成する物質には毒性のないものを選ぶ
4. 使用するエネルギーを少なく抑える
5. 技術的および経済的に可能な限り、再生可能な材料を使う
6. 使用する材料には、有用寿命を終えたら無害な物質に分解されるものを選ぶ

巨大な全体像から見れば、個人の行為は無視できる程度かもしれませんが、70億人が同じことをすれば無視できなくなります。集団でする行為が地域の空気、水、土壌を変化させるだけでなく、地域ひいては地球全体のエコシステムを痛めてしまうので、私たちが何かをするときには常に10億人単位での行動を考える必要があるのです。そして、どのような問題であっても創造的な解決を見つけられる可能性があり、「自分には何ができるか」「どうすればこの地域社会を変えられるか」と自問することを期待すると大野先生は述べられました。

頻繁に耳にするためすでに知っているような気になっていた「紫外線」「オゾン」などについて詳しい科学的な説明があり、よくわかりました。また、今自分のやっていることを10億人がするとどうなるかと考えることはとても重要で、子どもたちの教育でもこのことを強調するのは非常に重要だと思いました。そうすれば、少しずつでも皆が地球規模の持続可能性に適合する振る舞いができるようになるのではないのでしょうか。とてもおもしろくて勉強になるお話でした。

## 下村委津子氏「未来の選択～私たちの買い物が社会を変える～」報告

尼木 純子



いったい私たちの消費行動で何が変わるんだろうと、どういってお話をして下さるのか見当も付かない状況で、講演を拝聴しましたが、目から鱗！こういう考え方で消費行動を起こした事が無いなあと、本当に感心すると共に、社会の一員として何も考えず買い物をしていたんだなあと反省致しました。地球温暖化の悪影響は、近年ますます身近に感じられるようになってまいりましたが、私たちの消費行動の変化がそれを食い止める一助になり得るんだということを、今回あらためて知らされました。グリーンコンシューマー（環境を大切に考えて買い物をする人）になるべきで、①消費者（購入者）がグリーンな商品を求め出したら②店舗の品揃えや、推奨商品が変わる③グリーンな商品開発に熱心なメーカーが増える④グリーンな商品が手に入り易くなり、グリーンコンシューマーがさらに増える、といった経済のグリーン化が起こる。このお話になるほど！という気持ちと、一人の行動は、微力ながら皆がそういう観点で消費行動を起こすようになれば、大きな力となり得るだろう、こういった考え方を世間一般に広げていくことは大切だと思いました。

グリーンコンシューマー10原則：

1. 必要なものを必要な量だけ買う
2. 使い捨て商品ではなく、長く使えるものを選ぶ
3. 包装はないものを最優先し、次に最小限のもの、容器は再使用できるものを選ぶ
4. 作るとき、使うとき、捨てるとき、資源とエネルギー消費の少ないものを選ぶ
5. 化学物質による環境汚染と健康への影響の少ないものを選ぶ
6. 自然と生物多様性を損なわないものを選ぶ
7. 近くで生産・製造されたものを選ぶ
8. 作る人に公正な分配が保証されるものを選ぶ
9. リサイクルされたもの、リサイクルシステムのあるものを選ぶ
10. 環境問題に熱心に取り組み、環境情報を公開しているメーカーや店を選ぶ

現状ではこの10原則にすべてあてはまる買い物ができないこともありますが、だからと言って何もしないのではなく、一つでも実行していくことが大切だと、お教えいただきました。その積み重ねがライフスタイルを変える大きな効果を生み、社会をも変えていく原動力になるとお教えいただき、微力でも実行していきたいと思いました。

持続可能な消費・グリーンコンシューマーとは、①値段・デザイン・品質・便利さ・美味しさ（楽しさ、安全、健康等々）+②環境・公正・倫理・将来、これらを考慮して消費行動をすることは大事だと痛感しました。

3Rの優先順位は守られているか。3Rの順位は、1.Reduceごみを作らない、2.Reuse再使用、3.Recycleリサイクル。

持続可能な消費へ。そのためには：

1. 品物を選ぶ

「ぐりちょ（GREEN&ETHICAL CHOICE）」：インターネットとスマートフォンで商品選び。お店でも家庭でもすぐ選べる。現在15アイテム。

2. 企業を選ぶ

「企業のエシカル通信簿」：市民目線でほんとうに「良い」企業を応援。企業のCSR/環境活動のレイティング評価。食品加工、アパレル、コンビニ、化粧品、宅配、家電、外食チェーン、飲料メーカー、カフェチェーン、スーパーマーケットをレイティング。

上記の考え方を書いた枚本育生の『グリーンコンシューマー 世界をエコにする買い物のススメ』（昭和堂）の紹介がされました。地球温暖化の現状・影響・予測、そして私たちに出来ることは何か、子子孫孫に対しての私たちの責任、未来の選択を考えさせられる素晴らしい講義を拝聴して、ゾンタクラブの一員として、大事な示唆に富んだ時間を過ごせて良かったと思いました。

## 4月移動例会

芳川 た江子



2022年4月24日(日)に、4月移動例会として、MIHO美術館と「宗陶苑」に行ってきました。コロナ禍で、一昨年と昨年は計画したにもかかわらずキャンセルとなり、今回3度目の正直で実現することができてよかったです。

参加者は9名(尼木・坂本・笹岡・内藤・中田・中川・幡山・堀・芳川)で、京都八条口観光バス乗り場に8:20に集合して8:30に出発しました。中型の貸し切り観光バスで、9名だったので、ゆったりとした感じで座れました。バスガイドさんもおられ、色々とバスの中でも観光案内してもらいました。

MIHO美術館に9:50に着き、電気自動車または徒歩で美術館入口まで行っただのですが、途中の両側枝垂桜がまだ咲いていてきれいでした。美術館の中はとても広く、MIHO美術館のコレクションは、特別展「懐石の器」や、創立者・小山美秀子が40年以上にわたり折に触れ集めてきた茶道具、神道・仏教美術、書画、陶磁器、漆工などの多彩な日本美術が展示されていました。また、建築設計はI.M.ペイ氏(1917～2019)で、パルーヴル美術館のガラスのピラミッド、ワシントンのナショナルギャラリー東館などで世界的に知られる建築家で、1997年11月に建築されました。幾何学模様が織りなすガラス屋根から、ライムストーンの壁に明るい太陽の光が降り注ぎ、訪れる人々をやさしく包み込んでくれます。MIHO美術館で2時間くらいゆっくり見学して、その後昼食は近江牛づくしの「魚仙」で、ローストビーフ・ステーキ・すき焼きと近江牛を味わいました。

その後、信楽唯一の窯元の「宗陶苑」に行きました。ここは、NHKの朝の連続ドラマ「スカーレット」の撮影現場でもあり、三林京子さんが参加されていなかったのが残念でした。11室の登り窯があり、それぞれ登り窯や工房を見学して説明をうけました。又、売店では煎茶のお茶のサービスを受け、大満足でした。絵付けをされた方々もいらっしました。「宗陶苑」では2時間くらいゆっくりして、その後貸し切り観光バスにて京都八条口まで帰ってきました。あいにくの雨模様でしたが、館内の見学が多かったので、あまり天気を気にせず楽しむことができました。

## 卓話

## 子ども食堂活動報告

笠置 伸子



3月は久しぶりに対面例会で卓話をお聞きできると思っていたのですが、蔓延防止法下で残念ですが、Zoom例会になってしまいました。

浄土真宗本願寺派、教願寺のご住職である赤松勸誠氏に「子ども食堂」についてのお話をして頂きました。子ども食堂を立ち上げた動機は、社会福祉法人宝塚まどか園で地域貢献活動をするためです。子ども食堂で温かい食事を楽しい雰囲気でもらえれば、喜んでもらえると思っていたのですが、子どもの貧困には経済的貧困、物理的貧困、精神的貧困等があり、鍵っ子やシングルマザーの家庭が多くなっている中では、健康的な食材、日本に伝承されている食事を出す、食べ方を教える等、沢山の課題があることが分かった。

尼崎の子ども食堂の視察をした時に、元教師などが勉強を教えたり、化学実験室などを開催していた。食材は近所の人の人が持ち寄り、ボランティアの方がこれを調理して提供する。このことによって、子どもたちは勉強を学び、友達と一緒に遊べる。夕食をとって親が迎えに来るまでここで過ごす。今後の課題として地域の子どもを、自助・互助・共助・公助の考え方で地域の人々の協力のもと育てていくことが大切である。それを継続していくには、組織の中に、フードバンクを立ち上げ、発足と同時に後継者育成し、一人のリーダーに頼らない事が不可欠である。子どもによって貧困の種類が違うので、誰でも来て下さいと言うスタンスでいたいとお話をしていました。経験しないと分からないことばかりで、大変参考になり、この事を含めてボランティア活動をしていければと思います。赤松様、ありがとうございました。

# 2021年度 年間活動報告

2021.6.1. ~ 2022.5.31

例会日：毎月 第2木曜日 18時～  
4月・11月移動例会

月	日	曜	例会場所	事業内容	委員会活動その他
2021					
6	10	木	Zoom 例会	規約改正と年間活動報告 前年度決算報告、次期予算案審議	
7	15	木	花外楼	大阪I・II合同例会 AD 西川ひろこ氏クラブ訪問	
8	12	木	Zoom 例会	地区大会に向けて	納涼会中止
9	9	木	Zoom 例会	地区大会に向けて	広報誌 52 号発行
10	14	木	Zoom 例会	今後の活動について	10/15 地区大会 Part1 大津 (会場 3 名、オンライン 6 名参加)
11	11	木	リーガロイヤルホテル 蔦の間	チャリティイベント実施にむけて 野田一三氏の話「アフガニスタン・ イスラム諸国について」	
12	9	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ	イベントについて	
2022					
1	13	木	あべのハルカス ZK	新年会	
2	10	木	Zoom 例会	指名委員選出	
3	10	木	Zoom 例会	Zoom 卓話 赤松勸誠氏「子ども 食堂の運営と今後の課題につい て」	広報誌 53 号発行
4	14	木	ミホ美術館と信楽焼き 窯元「宗陶苑」	移動例会	
5	12	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ	5月22日のイベントについて	5/15 エリアミーティング金沢 (3 名参加) 5/22 イベント VOL.27「持続可能社会のた めに何が出来るか 化学者と消費者の見地 から」(リードあしや) 会場参加：16 名、オ ンライン参加：16 名



2022年7月例会

和太鼓に感動

牛田 三千子



2022年4月10日(日)、和太鼓の演奏会に行きました。三林京子様よりかねてお話を聞きしていましたが、一度和太鼓をじかに見聞きしたいという坂本、辻、中塚、久岡、牛田(敬称略)の5人が住吉区民センター大ホールで鑑賞させて頂きました。

まず、その大きなホールに満席の観客の多さにびっくり。このイベントは飛龍和太鼓教室の各クラスが日頃の練習成果を発表する会のようですが、各クラスのパフォーマンスのレベルの高さにまたびっくり。アンサンブル演奏なのですが、出演者の息がぴったりで、もし一人でも間違えるとよく目立つはずなのに、誰一人違ったところで太鼓をたたく人はなく、まさに一糸乱れぬ演奏ぶりでした。どれほど練習を積まれたことだろうと唯々敬服しました。

和太鼓は勇壮で男性的なイメージが強かったのですが、意外にも女性の演奏者が多く、あの力強いカッコよさに憧れる女性も多いのだと思いました。その出演メンバーは若い人ばかりではなく子供さんや、かなり高齢とおみうけする方もおられました。さすが二の腕など筋肉質で、腕が振り袖(?)状態の方など一人もなく、この練習はかなりの運動量になるのだと感心しました。また、和太鼓はリズムだけで音階はないわけですので、楽譜はどのように書かれているのか興味がわきました。ほとんどの方は本番では楽譜なしでしたが、練習では多分譜面台を前に置いて練習されているのではないのでしょうか。私たちも皆さんの演奏を拝見しながら、一度打ってみたいものだと思いますが、おそらく打ったその翌日は筋肉痛で腕があげられないだろうと皆諦めました。

最後に三林さんが黒装束にジレ風の衣装(山本耀司デザイン?)で登場され、五尺の大太鼓を力強く打ち始められました。途中から和太鼓の指導者お二人を左右に見事な演奏を披露してくださいました。三林さんは、いつもは三尺の太鼓で練習されているところ、今日の本番では初めて五尺の大太鼓に対峙するので圧力がぜんぜん違うと、楽屋で話しておられました。わずか半年の期間で密度の濃いお稽古をされたので上達が素晴らしかったと、松村先生や飛鳥先生がほめておられました。さすが、舞台人は違います!

私たち5人は途中で近くの喫茶店でお茶したりしながら、約3時間の長丁場を最後まで鑑賞させて頂き、その迫りに感動しながら帰路につきました。

三山ひろし特別公演——三林京子さん出演——

辻 康子



大阪IIゾンタクラブメンバーの三林京子さんが2022年5月20日~31日、大阪新歌舞伎座に於いて「三山ひろし特別公演」に出演されました。久々の公演にクラブ内のメンバー数名と楽しみに出かけました。

第1部「いごっそう纏(まとい) 天までとどけ!!」では演歌歌手の三山ひろしが腕のいい火消し、佐吉を演じます。火消しの腕を買われ土佐藩に指南役で赴いた先で、死んだと聞かされていた佐吉の母(三林京子さん)と再会します。今は土佐の殿様の側室となり、お家騒動に巻き込まれていた母親を救い、めでたしめでたしで一世一代の纏を振るというストーリーでした。三林京子さんは佐吉の母親役で立派で上品でとても存在感がありました。三山ひろしが高知県出身で剣玉の名手であることなど、さりげなく劇中に折り込み、纏を持っての大立ち回りや演者のせりふ回しなど、舞台ならではの魅力がここかしこで光っていました。

第2部は三山ひろしの歌謡ショー。日常私は演歌を聞くことはほとんどありませんが、彼の實力、歌唱力の素晴らしさ、リズム感の良さに改めて感じ入りました。童謡や昭和の名曲を次々披露。1960年代後半の私の青春真っただ中だった時の歌をメドレーで熱唱してくれた時には、手拍子合わせ、笑顔がこぼれ、すっかり当時の自分に戻ってしまいました。私の席の周りにいた大勢の人達は歌謡ショーが始まるや「三山ひろし」の真っ赤な法被を着て、ペンライトを両手にもち、歌に合わせて身体を振り夢見心地のように見受けられました。

コロナ禍で2年余りいろいろなエンターテイメントがキャンセルになる中、大なり小なり息をひそめ自粛生活をしていた私達にとって、今回の舞台は思いがけない息抜きでした。三林京子さんにはこれからもお元気で楽しい舞台を見せて頂きますよう期待しています。



編集後記

コロナ禍での生活がやや緩和され始めていた矢先に第7波がやってきてしまいました。毎日、疲弊していた人々の心が、少し旅行や会食という人との交わりを取り戻せると思っていました時だけに気持ちが重くなります。しかし、出来るイベントやミーティングに皆さまが参加され、それぞれのご報告や思いを綴ってくださることで今号の広報紙が無事発行にこぎつきました。会員の皆様のご協力感謝申し上げます。

清水 聖保